



地域と協働した防災活動を充実させます。

令和6年となりました。1月1日に石川県能登半島を震源とした地震で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。さて、東日本大震災で大きな被害を受けた檜葉町では、昨年度から3月に「ならは震災の防災と伝承のための週」を定めており、協働センターではこども園児、小中学生を対象とした様々な体験活動を実施してきております。**今年度はより多くの地域の皆さんと協働して取り組む活動として、「檜葉防災かるた」と「防災ウォーク」を実施することといたしました。**

「檜葉防災かるた」は、いざという時に避難の判断に使えるようなフレーズを5・7・5調でまとめる予定です。例えば9月に実施した地域学校協働防災授業では、津波発生時には常磐線の西側を目指して逃げるのが大切という話が出ました。これは「つなみだぞ せんろの西に さあ逃げろ」となります。全国で防災かるたは作られていますので、ネットなどを参考にして作っていただいたり、檜葉にも当てはまるものを選んでいただいても構いません。いただいた案を子どもたちが選んだり、作り変えたりして、かるたを完成させる予定です。



出典：佐賀大学

地域の皆様でご応募くださる場合は、センターまでメールでお願いします(保護者の方には別紙を配布しています)。

もう一つは「防災ウォーク」。これはぼうさい国体に代表として参加した6年生児童が学んできた取組です。檜葉町の防災士の皆さんとともにルートを調べ、内容を決める予定です。**3月3日(日)に実施する予定**ですので、ぜひご参加ください(詳細は来月号でお知らせします。)

自然災害に備え、子どもたちと共に防災・減災の意識を高くもち続けましょう!!!

第2期 檜葉町学校運営協議会専門委員を募集します!!!

こども園と小中学校の学校運営だけでなく、檜葉町の教育環境そのものに対して、非常に大きな力を発揮してくださった3つの学校運営協議会の専門部会。記念すべき第1期の委員の皆さんが、2年間にわたって精力的に活動してくださったおかげで、先進事例として全国紙にも取り上げられることとなった教育トークが実施されたり、4月に全家庭に配布予定の教育パンフレットが作成されたりもしました。また、教職員の働き方改革や児童生徒の登下校の安全にもつながっています。



4月からは第2期の学校運営協議会専門部会がスタートします。檜葉町の専門部会の特徴は、大学教授など外部の専門家がファシリテートしながら、保護者、地域の皆さんが教職員と一緒にいろいろな語り合えることです。メンバーとなることでつながりもでき、こども園や小中学校の実情もより深くわかるかもしれません。2カ月に一度、2時間程度の会議です。ご興味のある方は、ぜひ事務局までお気軽にお問い合わせください!!!



第2回 教育トーク参加の皆さま

特集!!!

家庭教育支援の充実を目指しています!!!

2年目となった協働センターでは、家庭教育支援部門を設置し、4名の支援員がサロンを開設して活動しています。今回は現代の子育て支援についての研修で支援員が得た学びを一部、紹介します。

現代の家庭での保育で大切なキーワードは、「① 子ども主体の ② 子どもの権利を尊重し、
③ 子どもが意志表明でき、④ 保育者の都合によらない」保育なのだそう。

- ・「子ども主体の」というのは「**子どもにとって**」ということ。
- ・「子どもの権利を尊重し」というのは、「**子どもの権利を認める**」ということ。
- ・「子どもが意志表明でき」というのは、「**子どもの声をよく聞く**」ということ。

この3つはだれでもすぐに納得できますが、「**保育者の都合によらない**」については…。

夕ご飯を食べて、お風呂に入れて、歯磨きさせて、次の日の準備をさせて、夕ご飯の片付けして、やることいっぱいあるのに、そういう時に、子どもが夕ご飯を食べてくれなかったら、「早く食べなさい!!!」ってつい大声出しちゃうときもありますよね。でも**大人の都合で保育をしないこと**が現代では大切なのだそうです。ぜひ意識してみてください!!!

第3回目のこども園での子育て講座を実施しました!!!

昨年12月20日に、桜の聖母短期大学の堺教授をお招きして、あおぞらこども園で本年度3回目となる保育者向け研修と保護者向けの講演会を開催しました。今回のテーマは非認知能力の育成。目標に向かってあきらめずに頑張る力や、人とうまくコミュニケーションして関わる力、そして感情をコントロールする力など、点数化できない力のことです。これらは小学校進学前に十分に育てておくことが、その後の人生においても重要だそう。そのためのポイントとして、**①褒めるときも怒るときも**

五感でほめること（特に触覚）、②家族で食事を共にすること、③手をかけすぎず、自分で出来ることは自分でやらせること、④手伝いや役割を与えることで、「必要とされている」と自覚させること、そして⑤たとえ失敗しても感情的に怒らず、その代わりに「課題」を明確にすることが挙げられていました。

講演後は子育てについて相談したり、個別のアドバイスを受けたりしていました。協働センターでは来年度もこども園を中心に、子育て支援講座を開催していく予定です。多くのご参加をお待ちしております。



【地域学校協働センターからのお知らせ】

○ エコバッグ プロジェクトのアンケート回答の御礼

先月号では、小学生が探究活動の一環として実施しているエコバッグについてのアンケートを皆様にお願ひしました。おかげさまで1月10日現在、200枚近いアンケートが回収されました。ありがとうございます。ご回答がお済みでない方は、ぜひご協力ください。よろしくお願いいたします。

【お問合せ先】 檜葉町地域学校協働センター（檜葉小学校1階） 猿渡・星
（直通）070-7421-5156（教育委員会）0240-23-5515 kyoudou-n@town.naraha.lg.jp